

山田線の今後の復旧計画等について

平成27年12月22日
東日本旅客鉄道（株）
盛岡支社

12月11日（金）19時32分頃、山田線「松草～平津戸」駅間で発生した、土砂流入による列車脱線により、お客さまがお怪我をされました。また、列車の運転を見合わせ、大変ご迷惑、ご心配をおかけいたしました。深くお詫び申し上げます。現在の状況と今後の復旧計画等について以下のとおりご報告いたします。

1. これまでの経過

事故翌日より、脱線した車両のサポートや崩壊現場周辺の伐採作業等と並行して斜面調査を実施していたところ、崩壊した斜面上方に、比較的新しいクラックが3箇所確認されました。

クラックについて、伸縮計等による計測を実施してきましたが、現時点において進行は収束しておらず、復旧工事を安全に実施する状況にはないと判断しております。

2. 当面の実施事項

クラックの進行状況や専門家による調査結果等を踏まえ、より詳細な斜面内の状態や動きを把握するため、ボーリング調査を開始いたしました。

今後、ボーリング調査により得られた地質条件等データを分析し、斜面の安定性を評価した後、復旧計画を策定してまいります。

3. 今後の復旧に向けた作業について

ボーリング調査および分析には概ね2ヶ月程度を要する見込みであります。現地の積雪、融雪状況も踏まえ復旧計画を策定し、復旧工事の再開時期を検討してまいります。

なお、復旧計画の策定にあたっては、現地は国有地も含まれるため、森林管理署等の関係機関と連携して進めてまいります。

4. 今後の運転計画等

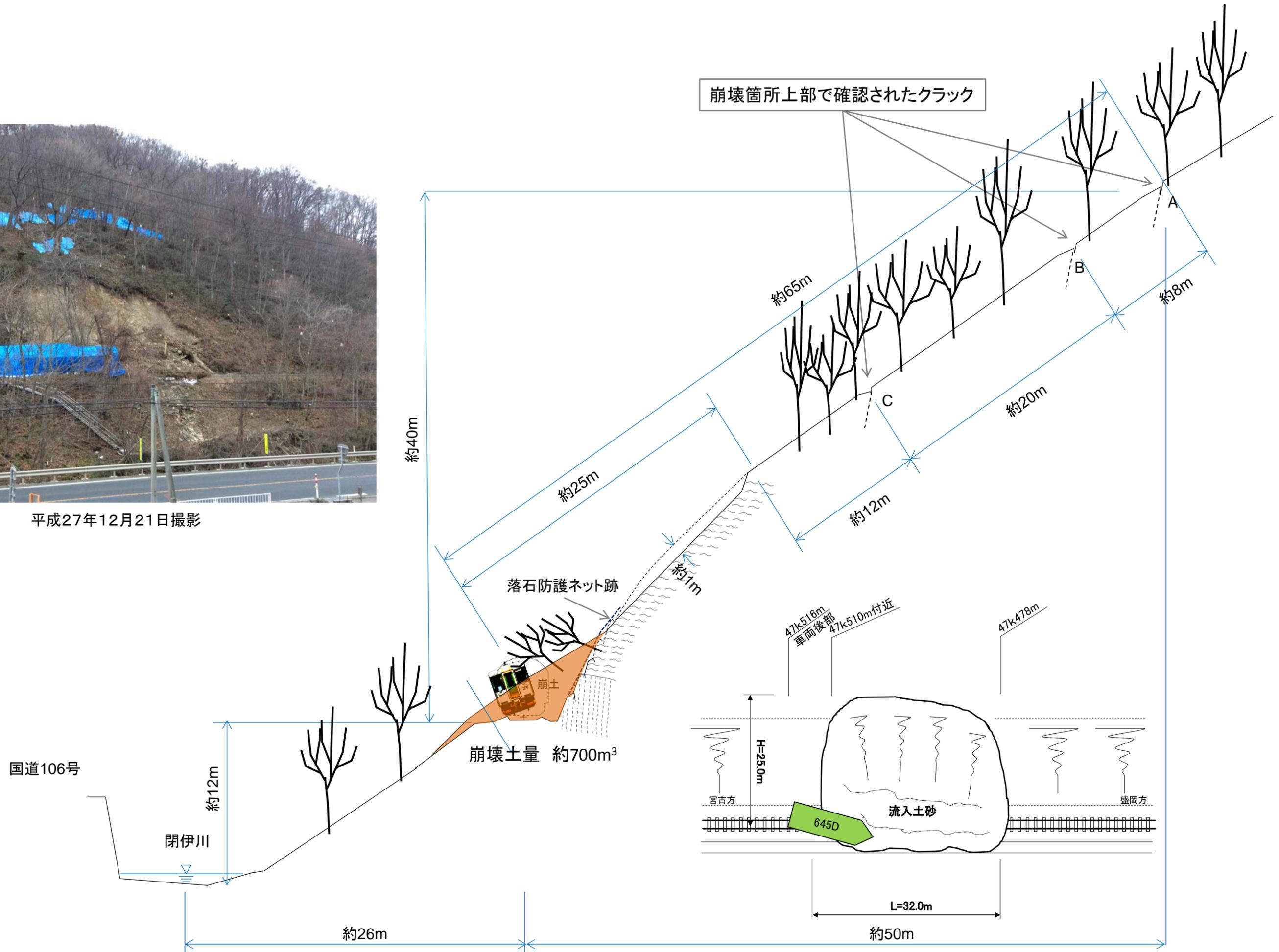
- ①盛岡駅～上米内駅間および川内駅～宮古駅間での折り返し運転を継続して実施します。
- ②当面の間、「106急行」への振替を継続して実施いたします。
- ③年末年始やイベント開催時などお客さまの混雑が予想される場合は振替バスを増発できる体制を整えます。
- ④宮古観光文化交流協会などとも連携し、イベントに合わせたバスツアーの実施や宣伝展開などにより、宮古方面への誘客に取り組んでまいります。

土砂崩壊箇所の斜面の現状

【別紙1】



平成27年12月21日撮影



12/11
(19:32)

①事故発生



12/12

②車両転倒防止措置



③崩壊現場周辺の伐採作業



12/13

④斜面にクラック発見



12/13
(13:45)

⑤作業中断



⑥クラック変位量計測開始



12/17

⑦車両転倒
防止措置
(土のう積み)



⑧ボーリング
作業準備(資
機材運搬)



12/21

⑨ボーリング
削孔開始



②車両転倒防止措置



③崩壊現場周辺の伐採作業

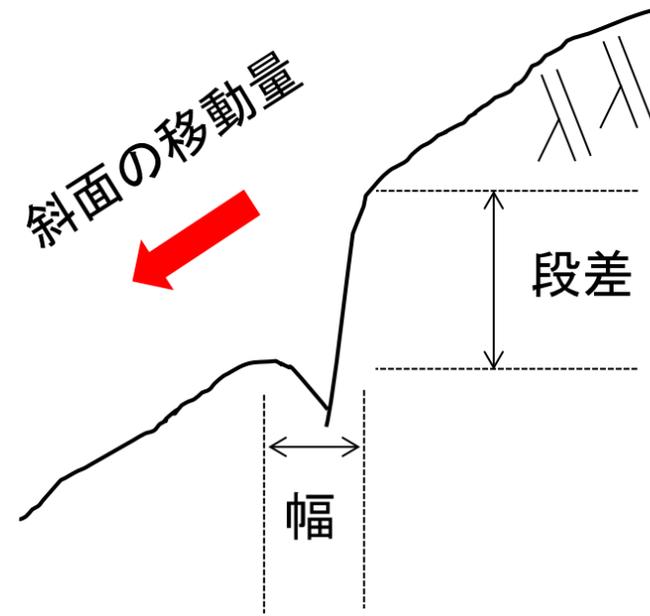
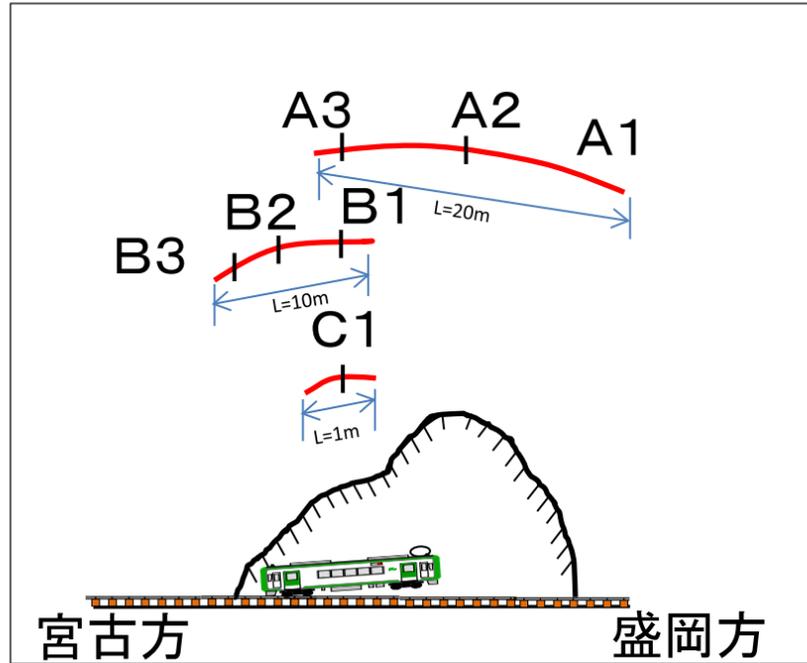


⑦車両転倒防止措置（土のう積み）

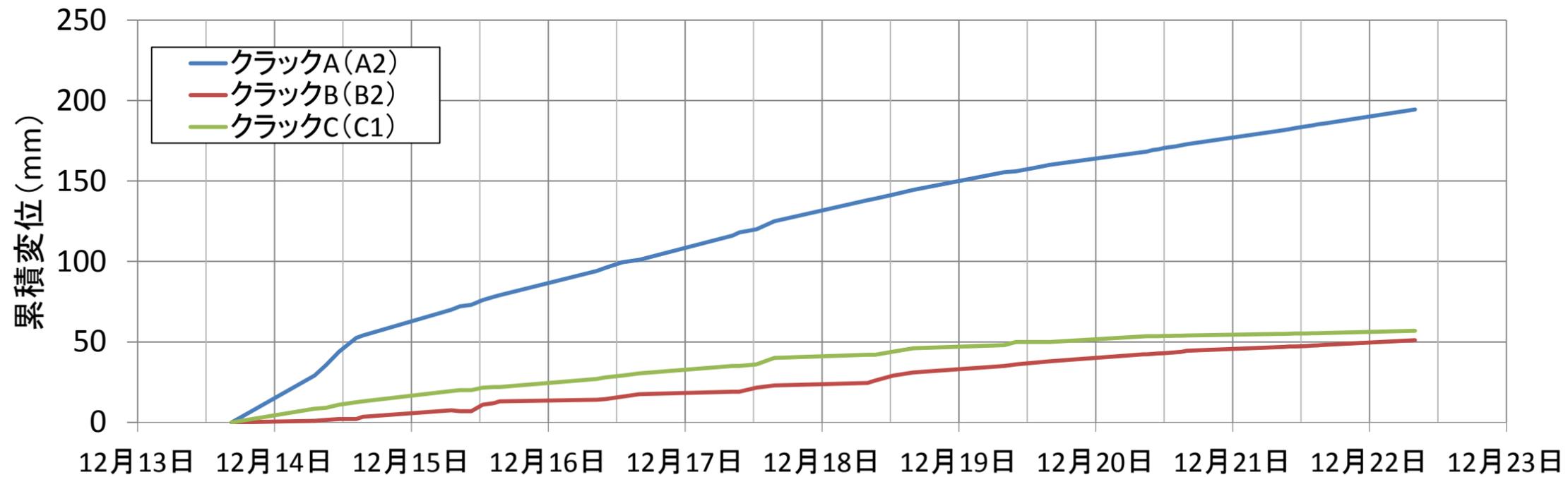


⑧ボーリング作業準備(資機材運搬)

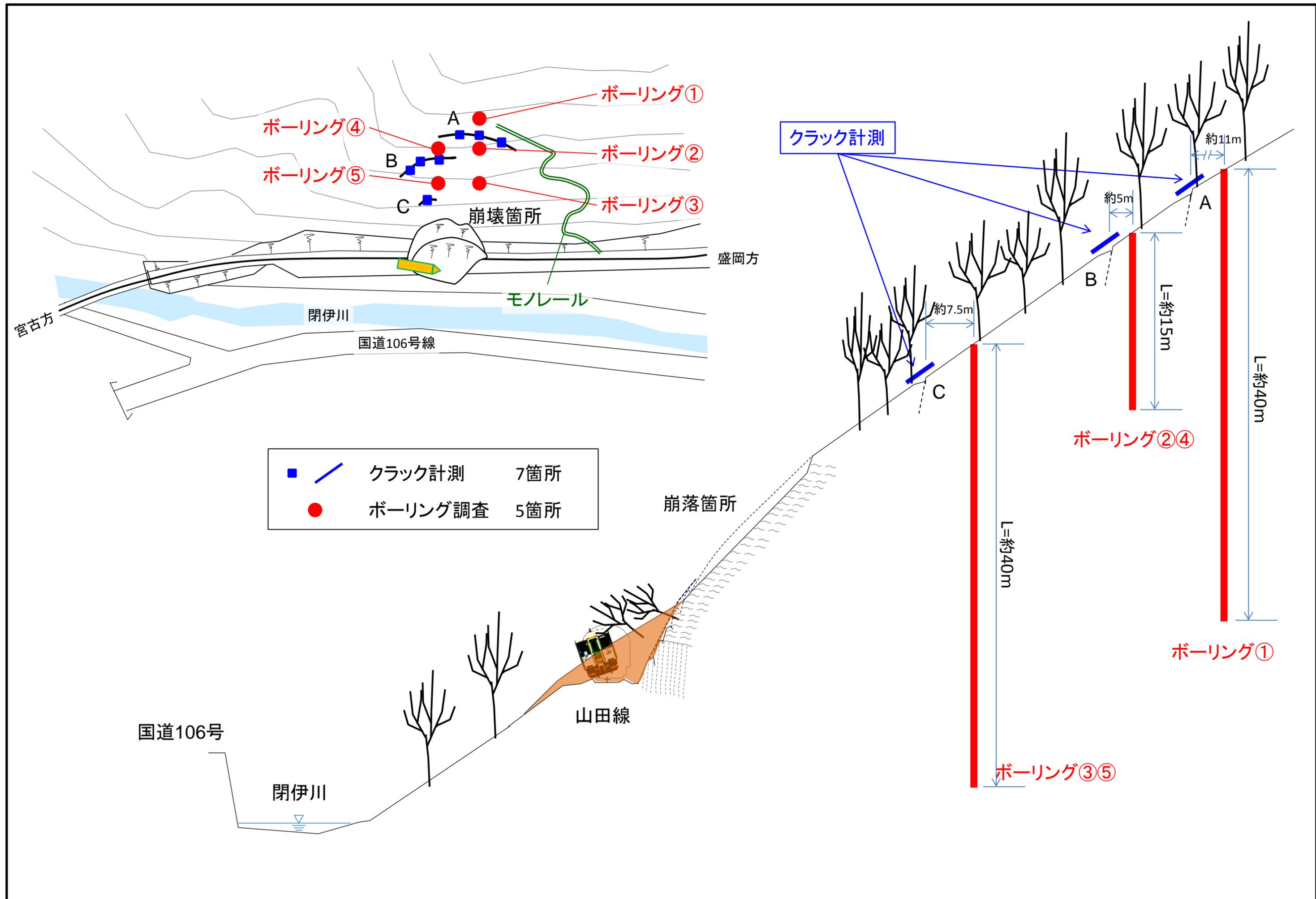
クラックA～Cの計測箇所



	発見時(12月13日)			12月13日以降の斜面の移動量 (12月22日8:00現在)
	長さ	幅	段差	
クラックA	20m	20cm	60cm	194.4mm [A2]
クラックB	10m	20cm	20cm	51.0mm [B2]
クラックC	1m	20cm	0cm	56.9mm [C1]

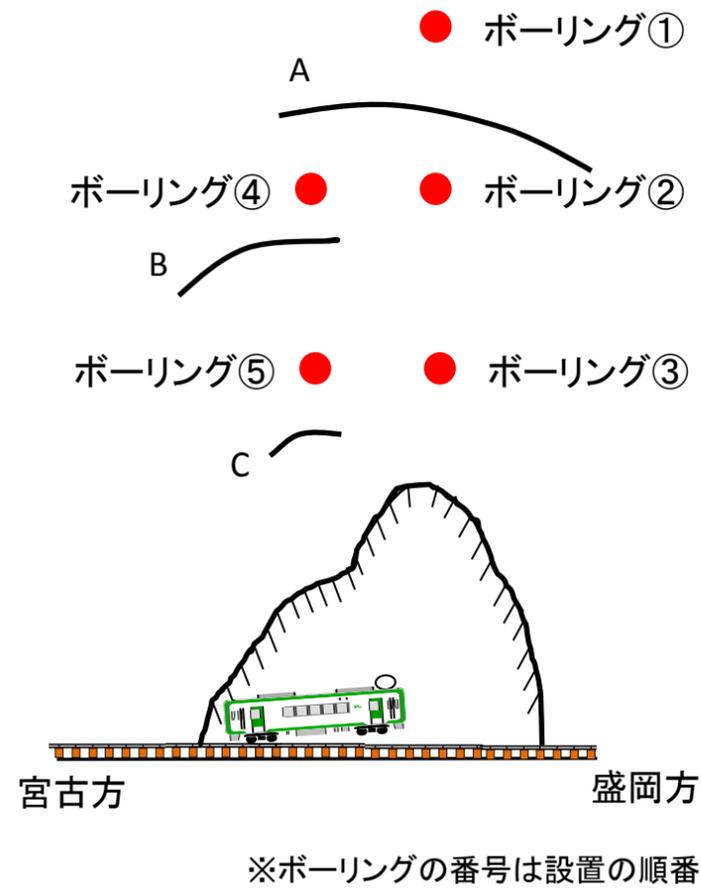


※ クラック計測結果が2mm/h以上のときは作業を中断します

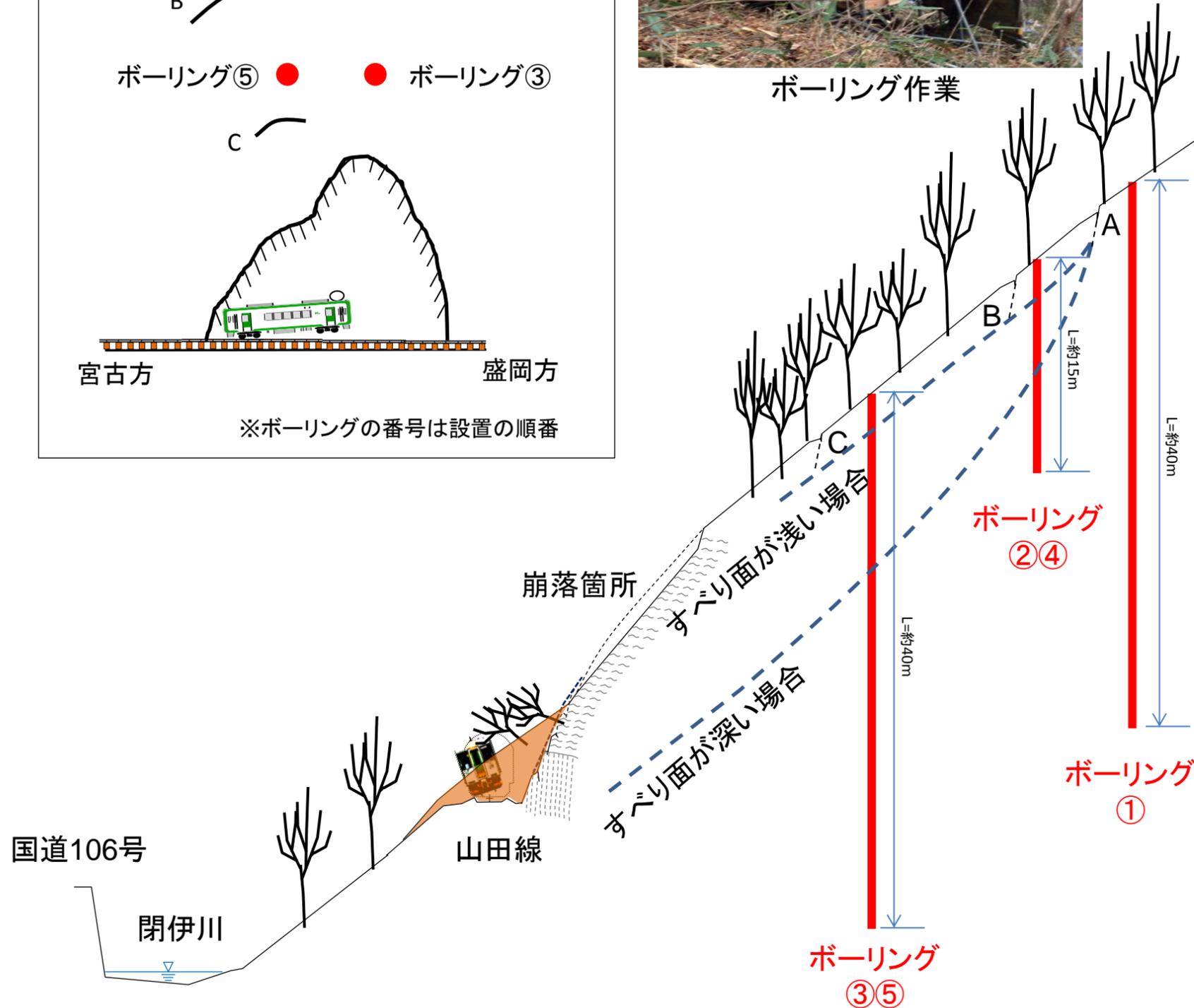


すべり面の位置、地層構造の把握

ボーリング調査箇所

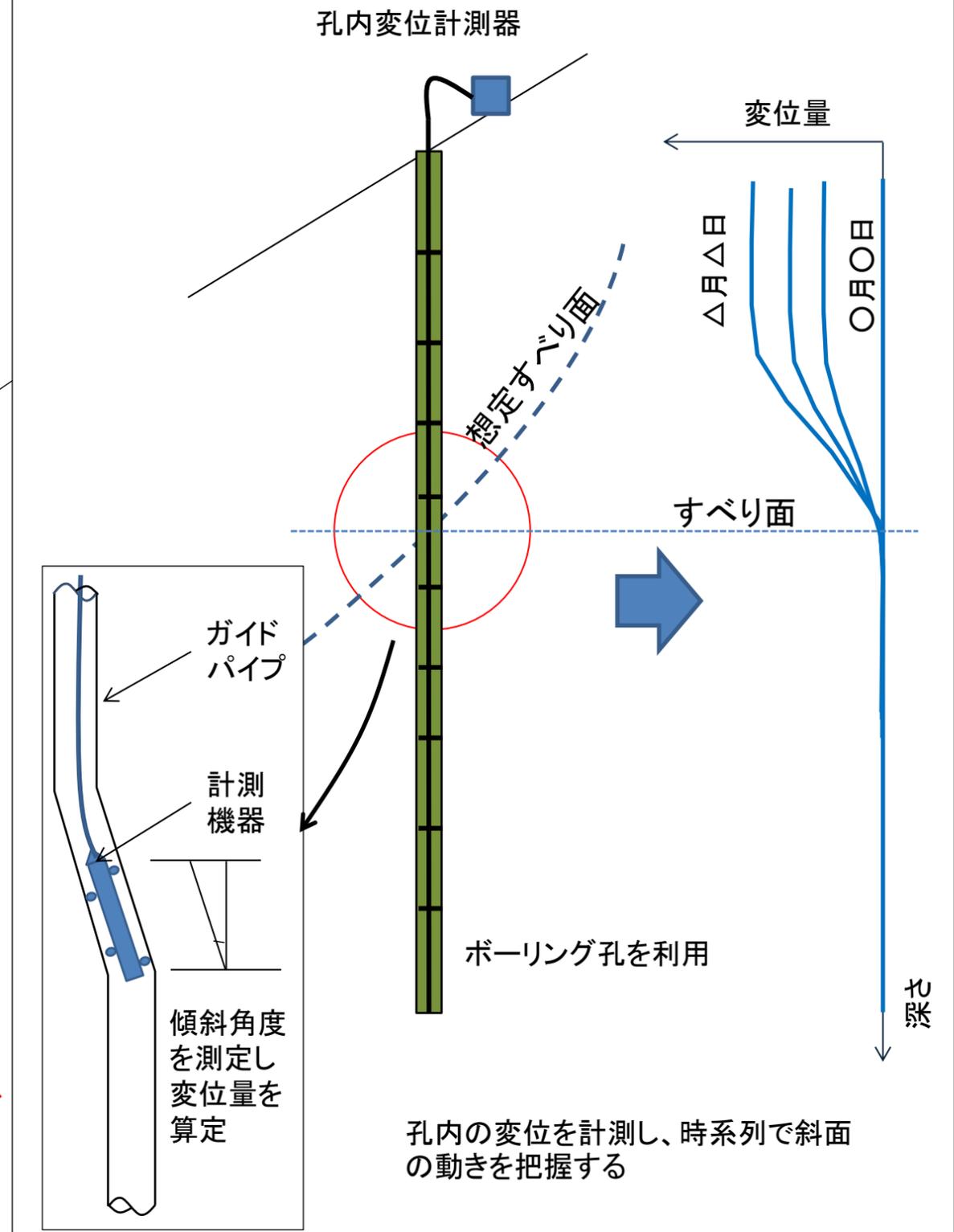


ボーリング作業



孔内の変位を計測

孔内変位計測 (イメージ)



復旧に向けてのスケジュール

